〇〇〇〇年度

法学部法律学科

総合型選抜（ゼミナール方式）

例

ゼミナール報告要旨（例）

〇〇〇〇年 〇月 〇日

氏　名　　〇〇　　〇〇

※ 課題について、自己の見解をまとめてください。

〇以下は、あくまでも例です。**2026 年度の課題は異なります。2026 年度の課題は、入試情報サイトに掲載されている「総合型選抜・学校推薦型選抜（公募・専願）課題・テーマ一覧」または入試対策コンテンツに掲載されている「2026 年度法学部入学試験の概要説明」で確認してください。**

〇わかりやすい・見やすい・読みやすいものとするため、自由に工夫してください。

課題：裁判員制度の是非

１.結論

裁判員制度に**賛成**する。

２.理由

・理由１

裁判員経験者の多くが、裁判員裁判に参加した経験を良い経験であったと感じている。

・理由２

性犯罪等で刑が重くなる一方、執行猶予の割合が増加した犯罪もあり、量刑の幅が広がった。

⇒ 国民にとって分かりにくかった刑事裁判に国民の感覚が反映され、刑事裁判が身近で分かりやすいものとなった。

３.問題点

・問題：辞退率の上昇と出席率の低下

・原因：刑事裁判に参加することに対する不安や、参加したくても参加しにくい環境があるのではないか？

４.解決策

裁判員として刑事裁判に安心して参加できる環境づくり

・提案１

刑事裁判に参加することに対して不安を持っている人のために…

⇒ 裁判員の守秘義務を緩和し、裁判員経験者に、経験を積極的に語ってもらう。

⇒ 裁判員裁判についての理解が広まり、不安の払しょくにつながる。

・提案２

刑事裁判に参加したいけれども、仕事や家事・育児・介護等を抱えている人のために…

⇒ 会社への裁判員休暇制度の導入推奨、家事・育児・介護をサポートする制度の充実

⇒ 仕事や家事・育児・介護の負担の軽減につながる。

提案１・２の効果：多くの人が刑事裁判に参加できるようになり、裁判員制度が、一層、定着し、刑事裁判がより良いものとなる。

※参考文献：最高裁判所事務総局『裁判員制度 10 年の総括報告書』（令和元年）

※ パソコン等で作成する場合は、原稿を本用紙の枠内に直接印字または貼付すること。